

京都大学人文科学研究所共同研究班 公開セミナー

映画『授業料』（1940年）と戦時期朝鮮の教育状況

日時 2015年6月13日（土）午後2時～5時
会場 京都大学人文科学研究所本館1階 セミナー室1
参加費 無料

(1) 「朝鮮映画『授業料』発掘と映画史的価値」

チョン・ジョンファさん（韓国映像資料院専任研究員）

(2) 映画『授業料』上映（1940年制作、字幕つき、80分、韓国映像資料院提供）

(3) 「戦時期朝鮮の教育状況」

カン・ミョンスクさん（韓国・培材大学校教授・韓国教育史）

（発表は韓国語、通訳あり、資料などは日本語）

朝鮮映画『授業料』（1940年高麗映画社製作、崔寅奎・方漢駿共同監督）は、日本語新聞『京城日報』「小学生綴り方（作文）」募集で朝鮮総督府学務局長賞を受賞した朝鮮人小学生の作文をもとにつくられた映画です。1938年に朝鮮教育令を改正して学校教育を奨励していた朝鮮総督府の政策と、貧しい生活をする朝鮮人家庭の状況がこの映画に反映しています。当時評判となったこの映画は、長く所在不明でしたが、昨年中国にフィルムが残っていることがわかりました。

フィルム発掘を担当したチョン・ジョンファさんに、植民地時期朝鮮映画史において「授業料」が占める位置とその価値について解説していただきます。

植民地期朝鮮教育史の専門家であるカン・ミョンスクさんには、当時の教育状況、教育問題に対する朝鮮人の認識などについて説明していただきます。

関心ある方々のご参加を歓迎します。



(主催)

京都大学人文科学研究所共同研究班「アジア・太平洋戦争期朝鮮社会の諸相」
科学研究費補助金基盤研究(B)「戦時期朝鮮の政治・社会史に関する一次史料の基礎的研究」

(連絡先)

京都大学人文科学研究所
水野研究室 075 - 753 - 6925



(スタッフ)

製作：高麗映画社（李創用）

企画：西亀元貞

脚本：八木保太郎

原作：禹壽栄

台詞：柳致真

音楽：伊藤宣二（東京交響管弦楽団）

演出：崔寅奎、方漢駿

撮影：李明雨 録音：梁柱南

日本語版監修：飯島正

(配役)

田代先生：薄田研二

（新築地劇場）

禹栄達：鄭燦朝

祖母：卜恵淑

安貞姫：金鍾一

貴蘭：金信哉

家主：独銀麒

金魚売り：田澤二

牛車夫：崔雲峰

郵便配達夫：金一海

栄達の父：金漢

栄達の母：文芸峰

あらすじ

水原の小学校4年生栄達の家は、父と母が行商に出てから半年が経ったも便りがなく、祖母が毎日くず拾いをして稼いだお金で何とか暮している。3ヵ月分の授業料を払えない栄達は学校に行かず、祖母も病気になってしまう。友達ビョンジュンの姉貴蘭は栄達の家へ米を持ってきてくれ、担任の田代先生は家庭訪問をして祖母に授業料を渡していく。しかし、家主が来て、そのお金を家賃に持ってしまったため、栄達はまた学校に行けなくなる。祖母は栄達に、平沢のおばさん宅に行って授業料をもらって来ることができるかと聞く。

朝早く出発した栄達は牛車に乗せてもらったり居酒屋で水をもらったりしながら、6里（約20^{キロ}）の道を歩いて、平沢のおばさん宅に無事到着する。次の日、授業料と米をもらってバスで帰ってきた栄達は、祖母に挨拶だけした後、授業料を払うために学校に走って行く。田代先生は栄達のために級友がお金を集めた友情箱を見せ、これからは授業料の心配をせずに勉強しろという。学校から帰ってくると、父から手紙が届いていた。これまで母が病気で連絡ができなかったという手紙と一緒に、お金と服、靴が入った小包が届いていた。農楽隊が繰り出すお盆のころ、栄達の両親が故郷に帰ってくる。